

甲州わだつみ平和文庫の資料整理に協力

NPO 地域資料デジタル化研究会では、戦没学生の手記「きけわだつみのこえ」を編集した中村克郎さん(甲州市塩山上於曾)の蔵書を「甲州わだつみ平和文庫」として整備する事業を支援し、資料整理の協力しています。

「きけわだつみのこえ」は、克郎さんの兄徳郎さんが学徒として戦地に召集されたときに、託された1冊の手記をもとに、全国の戦没学生の思いをつづった手記を集めて編集されました。徳郎さんはこの手記と合わせて「岩波文庫だけは必ずすべて買っておいでくれ」と言い残したことから、克郎さんは、岩波文庫をはじめ、戦争と平和をテーマとして、さまざまな資料を購入し、蔵書はおよそ10万点に達しました。

この蔵書を父克郎さんから管理を託された中村はるねさん(産婦人科医、東京在住)は現在、甲州わだつみ平和文庫建設の準備を進めており、「父は戦没学生と同じ数だけの本を集めたと思う。学徒の苦悩を伝えて欲しい切望した叔父と闘病中の父のためにも、ふるさと塩山に平和文庫を開設させることが私の夢」と山梨日日新聞の取材に語っています。

地域資料デジタル化研究会では、小林理事長が蔵書資料の監修を行い、会員もボランティア活動を行っています。

なお、詳細について山梨日日新聞平成 20 年7月 12 日付け文化紙面に特集記事が掲載されています。

なお、平和文庫のボランティア活動してみたい方は、お問い合わせください。



添付資料:

関連ページ:

登録者: 地域資料デジタル化研究会

登録日時: 2008-07-20 15:47:46

最終更新日時: 2008-07-20 16:25:18

なお、毎日新聞山梨版には、甲州わだつみ平和文庫について、次のように報道されましたので、以下に引用させていただきました。

わだつみ平和文庫:「きけわだつみのこえ」資料集め、甲州市に開館

／山梨

◇戦没学生の手記など3万点閲覧可能

戦争や平和に関する資料約10万点を集めた「わだつみ平和文庫」が、甲州市塩山上於曾の旧中村医院に開館した。戦没学徒の手記集「きけわだつみのこえ」の編集に携わった同医院の元院長、中村克郎さん(83)が集めた手記や、太平洋戦争に関する書籍約3万点が閲覧できる。中村さんの長女で医師のはるねさん(54)は「資料を手に取り、絶対に戦争はいけないということを感じてほしい」と話している。

中村さんの兄・徳郎さんは東大在学中に学徒として出征し、1944年に南方戦線で戦死した。出征時に徳郎さんから思いをつづった手記を託された中村さんは戦後、全国の戦没学生の手記を集め、「きけわだつみのこえ」などの手記集を出版。戦時中表に出ることのなかった若者の本音をつづった手記は、大きな反響を呼んだ。

中村さんは9年前交通事故に遭い、現在は闘病生活を送る。「父や伯父の残した手記や本を平和と結びつけていきたい」との思いを抱いたはるねさんが、出征学徒の思

いを伝える資料と図書が閲覧できる平和文庫の整備を進め、25日に開館にこぎ着けた。

1階に展示されている徳郎さんの直筆日記には、「日本人はもっと謙譲であるべきだ」と記した有名な一説があり、戦争を嫌った徳郎さんの本音を垣間見ることができる。また、中村さんが集めた昭和天皇に関する文献や太平洋戦争に関する研究書などはすべて手に取って見ることができ、来年1月からは無料貸し出しもするという。問い合わせは同文庫(電話0553・32・4525)。

毎日新聞 2008年10月28日 地方版